

資料

## オリンピック 200 米競争から

### Analysis of the Men's 200 M race. - From 1984 LA Olympics -

渡 部 近 志\*

Chikashi Watabe

#### 1. はじめに

第23回オリンピックは、米国 Los Angeles 市において開催され、多くの話題を残して閉幕したことは承知の如くである。

オリンピックに参加することは、アスリートの夢であり、その参加することに困難さがあることも理解している。

そのオリンピックに、日本側テレビ中継の一員として、陸上競技の解説として参加出来たことは、この上もなく喜びを憶えた。

陸上競技は、1932年以来2度目の会場となったメモリアルスタジアムに於いて開催された。

大会の話題は、カール・ルイスの四種目（100 m, 200 m, Long Jump, 4 × 100 m R）に渡っての金メダル、オーエンス以来の出来事として最大の感心事となっていた。

その結果は、圧倒的な大差をもって四冠は成しとげられたのであった。

そこで本報告では、ルイスの優勝四種目の1つ、200 m競走をとり上げ、準決勝、決勝の Splits Time を参照しながら、レース分析を行なおうとするものである。

#### 2. 方 法

公式発表された準決勝、決勝 Splits Time（1st 100 m Time, 2nd 100 m Time）を参照し行うものとした。

#### 3. 結 果

200 m競走は、第1次予選、第2次予選、準決勝、決勝と計4回のレースが行なわれ、決勝は8名の競技者にて行なわれた。

一般に競技力の高い競技者は、第1次、第2次予選においては「流す」傾向が見られ、本来の力を発揮することではなく、データーとしても意味がなくなる。

準決勝では決勝進出をかけ（二組各上位4名が決勝に進出）、実力通りの走りを見ることが出来た。と同時にレース自体も大変興味あるものとなった。

表1は、準決勝二組の Splits Time をまとめたものである。さらに図1, 2, スピード (m/sec) を1st 100 m, 2nd 100 m ごとにまとめてみた。

この結果から準決勝における特徴が見い出すことが出来た。

200 m競走は、全距離の60%を曲走路を走らなければならず、この区間での Time, スピードは、準決勝進出者（16名）に大きな差は見られず、勝敗は後半において大きな異いを見せている点である。

一般にレースは後半部においてその勝敗は決ってくることを理解しているが、まさに準決勝二組のレースはその点を裏づけるものとなった。すなわち2nd 100 mでのスピードが10.0 m/secを示した競技者が決勝に進出したことにあった。Time

表1 200 m 準決勝2組 Splits Time

Heart-1	Name	A		B		Result (m/sec)		A / B
		1st 100	(m/sec)	2nd 100	(m/sec)			
	Baptiste (USA)	10.45	9.6	9.84	10.1	20.29	9.9	6.2%
	Jefferson (USA)	10.46	9.6	9.94	10.1	20.40	9.8	5.2%
	Mennea (ITA)	10.51	9.5	9.96	10.0	20.47	9.8	5.5%
	Boussemart (FRA)	10.52	9.5	10.03	10.0	20.55	9.7	4.9%
	Silva (BRA)	10.55	9.5	10.25	9.8	20.80	9.6	2.9%
	Young (JAM)	10.59	9.4	10.58	9.4	21.17	9.4	0.1%
	Mahorn (CAN)	10.62	9.4	10.15	9.9	20.77	9.6	4.6%
	Morales (PUR)	10.63	9.4	10.59	9.4	21.22	9.4	0.4%
	$\bar{X}$	10.54	9.5	10.17	9.9	20.71	9.7	3.6%
Heart-2								
	Williams (CAN)	10.31	9.7	10.39	9.6	20.70	9.7	1.0%
	Lewis (USA)	10.36	9.7	9.91	10.1	20.27	9.9	4.5%
	Silva (BRA)	10.43	9.6	10.18	9.8	20.61	9.7	2.5%
	Tilli (ITA)	10.45	9.6	10.47	9.6	20.92	9.6	0.2%
	Quarrie (JAM)	10.53	9.5	10.24	9.8	20.77	9.6	2.8%
	Mafe (GBR)	10.58	9.5	10.05	10.0	20.63	9.7	5.3%
	Luebke (FGR)	10.63	9.4	10.04	10.0	20.67	9.7	5.9%
	Simionat (ITA)	10.64	9.4	10.08	10.0	20.72	9.7	5.6%
	$\bar{X}$	10.49	9.5	10.17	9.9	20.66	9.7	3.1%

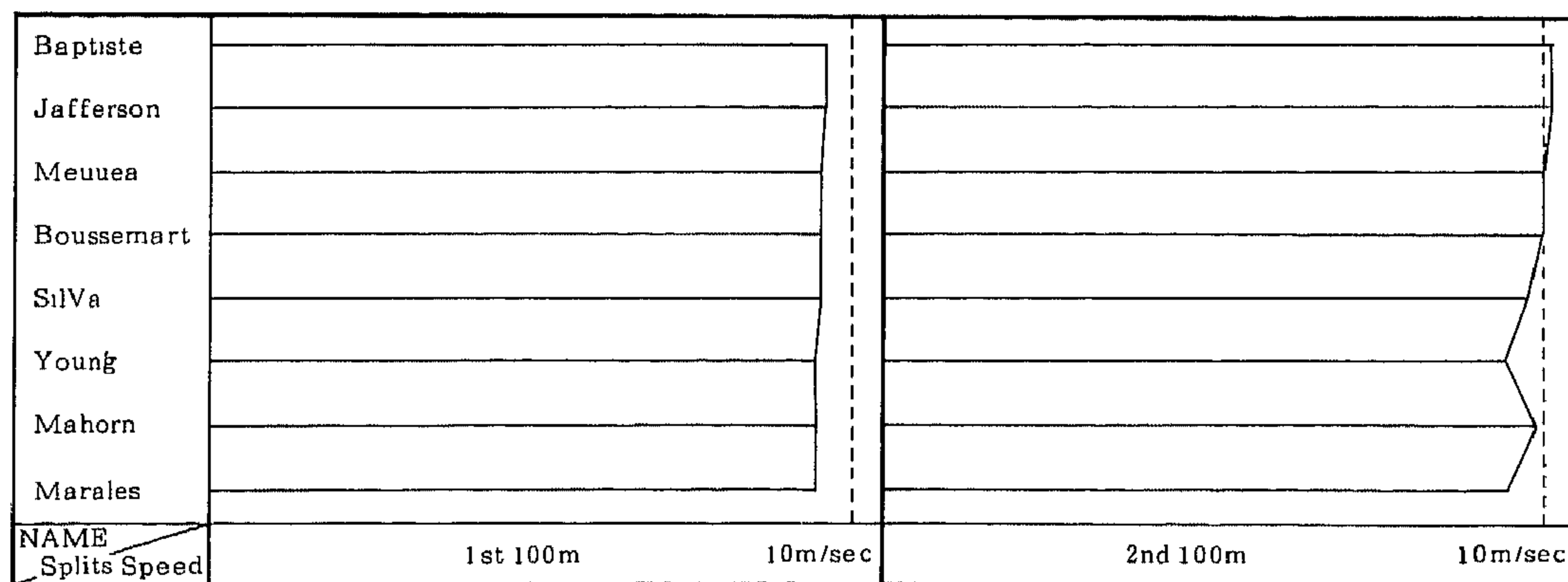


図1 準決勝第1組 Splits Speed (m/sec)

上昇率を見ても1組3.6%，2組3.1%の上昇率を見せていた。

次に、決勝時の Splits Time を表2に示し、図3にはスピード (m/sec) を示した。

決勝では特徴的な走りを見せた、カール・ルイスと、2位入賞バプティストの2人を対比させ

つ分析を行うことにした。

曲走路における走りは、スピードの上昇とともにそれに対応した走り方を見せなければならない。すなわち遠心力を打ち消すように身体を内傾しつつ走る技術が必要とされるからである。

ルイス 1st 100 m 10秒23、バプティスト 10秒41、

Williams									
Lewis									
Silva									
Tilli									
Quarvie									
Mafe									
Luebke									
Simionat									
NAME	1st 100m				2nd 100m				
Splits Speed	10m/sec				10m/sec				

図2 準決勝第2組 Splits Speed (m/sec)

表2 200m 決勝 Splits Time

Fainal	1. Lewis	10.23	9.8	9.57	10.4	19.80	10.1	6.9%
	2. Baptiste	10.41	9.6	9.55	10.5	19.96	10.0	9.0%
	3. Jefferson	10.43	9.6	9.83	10.2	20.26	9.9	6.1%
	4. Silva	10.47	9.6	9.83	10.2	20.30	9.9	6.5%
	5. Luebke	10.72	9.3	9.79	10.2	20.51	9.8	9.5%
	6. Boussamart	10.58	9.5	9.97	10.0	20.55	9.7	6.1%
	7. Mennea	10.50	9.5	10.05	10.0	20.55	9.7	4.5%
	8. Mafe	10.69	9.4	10.16	9.8	20.85	9.6	5.2%
	X	10.50	9.5	9.84	10.2	20.35	9.8	6.7%

Lewis									
Baptiste									
Jafferson									
Silva									
Luebke									
Boussamant									
Meuuea									
Mafe									
NAME	1st 100m				2nd 100m				
Splits Speed	10m/sec				10m/sec				

図3 決勝 Splits Speed (m/sec)

またスピードは各々、9.8 m/sec, 9.6 m/secを示していた。

この点を見る限りにおいては、ルイス曲走路における走技術の優秀さを物語っていると同時に、彼の特徴をよく表わしていた。

しかし2nd 100 mにおいてはバプティストに激しく追い込まれている。バプティスト2nd 100 m 9秒55, 10.5 m/sec, 2nd 100 m Time上昇率9.0%, ルイス同6.9%であった。

オリンピック決勝時では、想像以上の重圧を払

いのけてのレースとなると同時、勝敗への意欲も通常のレースとは異なるものと思われるために、前半で勝敗を決定するか、後半において勝敗を決定するかが競技者に与えられた選抜の余地である。

このように考え合せレースを見てみると、ルイス、バプティスト共に彼等の持つ特徴を出しきり、見ている者にとっても見ごたえのあるレースとなった。

#### 4. ま と め

準決勝においては、前半（1st 100 m）より後

半（2nd 100 m）に力が注がれてレースが行なわれていた。

決勝は、各競技者の持つ特徴を「その一本」にかける走りが見られた。

100 m 競走とは異なり、60%にも及ぶ曲走路での疾走は、レースを見ている者にとっても、競技者自身にとっても大きなポイントとなってくることが改めて理解することができた。